

新潟県立看護大学の機関リポジトリ構築の試み

関谷伸一, 橋本明浩, 吉原貴子, 中野正春, 水口陽子
新潟県立看護大学

キーワード: リポジトリ, にこナース, ドコカレ, 緊急雇用創出事業

I. はじめに

近年, 全国の各大学において学術情報のオープンアクセス化をめざして機関リポジトリの構築が進み, 2011年3月における国立情報学研究所の機関リポジトリ一覧によると130校余りの大学が列挙されている¹⁾. そのうち国立大学では, 国の支援事業の強力な後押しにより一挙に機関リポジトリ構築が推進され, すでに86大学中76大学(88.4%)が公開している. しかし公立大学では12校, 私立大学では39校が公開しているのみである.

本学の機関リポジトリについては, 本研究班の立ち上げを含めいくつかの試みを重ねながら構築の可能性を探ってきた. 幸い, 平成19年度に文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択されたため, コンピュータシステムのインフラ整備が進み, これらを活用することができた²⁾. 最終的には図書館と情報化推進本部が中心になって作業を進めた. その結果「にこナース」という愛称のもとに, 平成22年12月1日から運用開始となった³⁾. ここでは「にこナース」の構築の経緯, 内容, 現状と将来展望について報告する.

II. 「にこナース」構築の歩み

機関リポジトリ構築のためには, サーバ等のハードウェアとDspace等のソフトウェアの整備, コンテンツの電子化作業, 著作権処理や運用規程の整備が必要であり, さらに学内でのコンセンサスを得ることが重要であった. これらの整備と準備は, 主に看護研究交流センター, 図書館, 情報化推進本部, 図書委員会, 広報委員会によって個別に推進され, 本研究班のメンバーがそのいずれかに属してその経緯を見守ってきた. 経緯の概略は表1の通りである.

著作権処理については, 緊急雇用創出事業予算で非常勤職員を1名雇用し専任とした. 図書館では当初「新潟県地域共同リポジトリ」に「新潟県立看護短期大学紀要」だけを登録することを予定して著作権処理を始めた. その後に機関リポジトリ構築計画が浮上したため, 短大紀要とそれ以外の著作権処理は分けて行われた. 最終的に非常勤職員が両者の処理にあたったが, 書式が異なったため作業が煩雑化した.

III. 「にこナース」の内容

「にこナース」に登録するコンテンツは, 「新潟県立看護大学リポジトリ運用指針」第3, 第4に定めてあるとおり「本学に在籍する, 又は在籍したことのある教職員及び大学院生」

表1 新潟県立看護大学機関リポジトリ構築の経緯

平成	月	事 項
19	7	文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択
20	10	図書委員会主催の研修会「研究成果発信と学術情報リポジトリ」開催
21	7	新潟県大学図書館協議会で「新潟県地域共同リポジトリ」承認
21	10	看護研究交流センター平成 22 年度地域課題研究「新潟県立看護大学の機 関リポジトリ構築の試み」採択
21	11	図書館により「新潟県立看護短期大学紀要」の電子化作業開始
21	11	『「新潟県立看護大学リポジトリ」の構築について（要望）』を情報化推進 本部に提出
21 22	12 ～3	厚生労働省「緊急雇用創出事業」による予算措置で、システム構築とコン テンツ（報告書、センター年報、広報誌等）の電子化
22	1	情報化推進本部「学術研究成果物の電子化・公開の同意について（依頼）」 発行
22	4	試験公開
22	9	情報化推進本部が本学リポジトリの略称を「NICONURS（にこナース）」 と命名
22	11	「新潟県立看護大学リポジトリ運用指針」制定
22	12	新潟県立看護大学機関リポジトリ「にこナース」として正式公開
23	2	リポジトリ研修会（「にこナース」構築記念フォーラム）開催

がその生成に関与した「学術論文／調査・研究報告書／学会・会議等での発表資料／修士学位論文又はその要旨／授業で使用した教材／一般雑誌論文もしくは新聞記事／本学刊行物」のいずれかに該当するものである。一般的に他大学の機関リポジトリでは学術情報コンテンツを中心に収集されているが、本学では「本学刊行物」を広く収集・保存することを目標に入
学案内や大学ニュース「ポルティコの広場」などの広報資料や、本学教員が連載している新
潟日報 NIC かわらばんの「看護大学通信」（新聞記事）など、学術情報コンテンツ以外にも積
極的に登録した。リポジトリ公開時点で、全文つきデータの 50%が広報資料である。

著作権の許諾状況は平成 22 年 3 月 31 日時点で、短期大学紀要やセンター年報論文など広
報資料や新聞記事を除く 328 論文のうち 55 論文が許諾不可または未回答となった。不可ま
たは未回答の理由は、本学を退職しており連絡先が不明もしくは督促しても返事がないため、
あるいは「過去の論文を今更公開してほしくない。その後に発表した論文を見てほしい。」と
いう内容のためであった。

リポジトリはさまざまなサービスプロバイダにハーベストされることで、より広く世界か
らシームレスに本文にアクセスしてもらえ。そのために国内外のサービスプロバイダに登
録した。また、平成 23 年 2 月からは新潟県地域共同リポジトリからもハーベストされた。

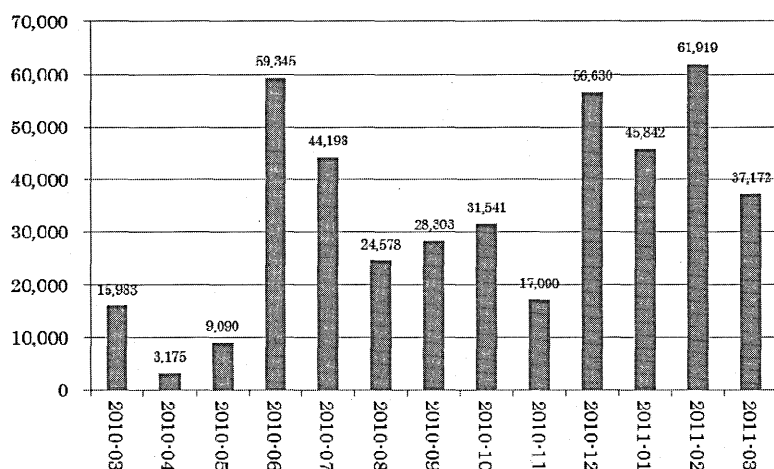


図1 サーバへの月別アクセス件数

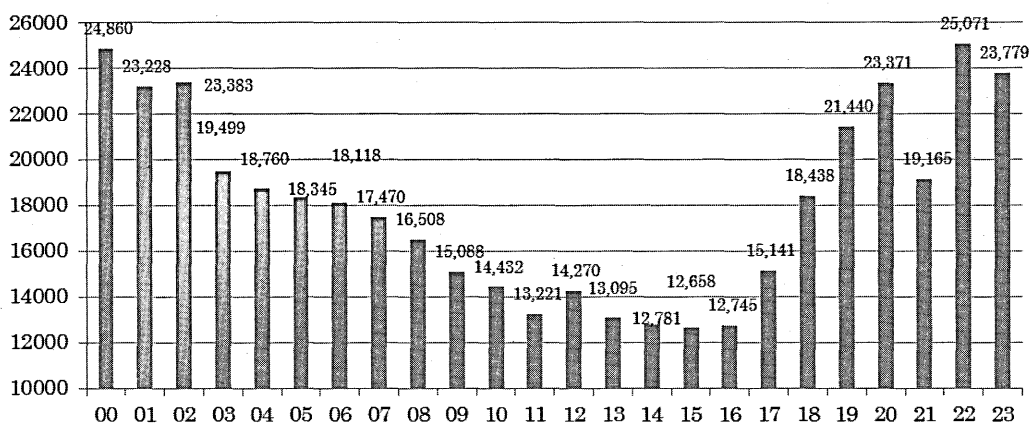
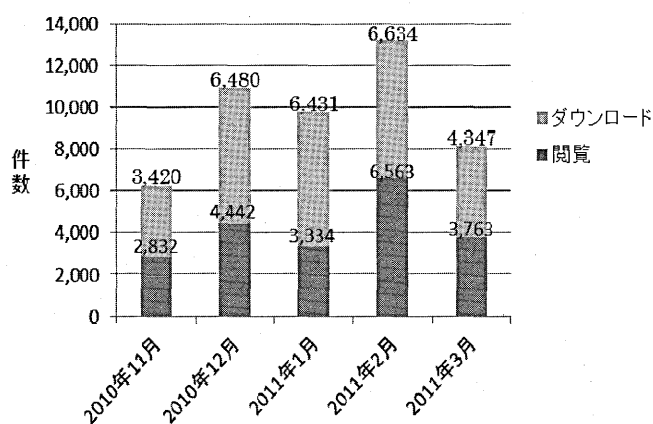


図2 サーバへの時間帯別アクセス件数

IV. 「にこナース」の利用状況

本学リポジトリ「にこナース」は平成22年4月から試験公開し、同年12月1日から正式に公開された。サーバへの月別および時間帯別アクセス件数は図1、2の通りである。「にこナース」の実際の利用状況はDspaceの利用統計による閲覧件数（コミュニティやコレクションへのアクセス件数）とダウンロード件数（PDFファイルへのアクセス）で示される（図3）。

それゆえサーバへのアクセスの大多数が検索エンジンによるものであると思われる。2011年3月の値が低いのは、月半ばでの途中集計であるためであり、これからさらに利用が伸びるものと思われる。コンテンツの高頻度利用アイテムは、本学の自己点検自己評価報告書、修士論文、短大紀要に掲載されている各種論文であった。



V. 「にこナース」の将来

1. 「にこナース」の活用

今回、基本的なりポジトリの構築はできたが、今後一層活用していくことで、リポジトリ構築の有用性が高まると考える。活用方法として考えられることは、まず教育への活用である。例えば、本学4年生の「看護研究」の資料として、指導教員の論文をリポジトリに登録しておけば、学生が容易に参考文献として活用できるようになるであろう。また、本学教員が作成した教材等についても、登録することで利用価値が高まると考える。

次に、研究活動の面では、すでに短大紀要論文へのアクセス件数が示しているように、本学で行われた学術研究の紹介はこれからの研究活動の活性化につながるものと期待される。そのためにも教員一人一人が積極的に「にこナース」に研究成果や著作物を登録し、活用していくことが望まれる。

さらに大学全体としては、各種資料を登録することによって「にこナース」がまさに大学のリポジトリ（貯蔵庫）となるであろう。今回、開学時から現在までの看護大学ニュース等を登録したが、これらはこれまでの本学の歩みを伝える貴重な資料となっている。平成23年度は本学開学10周年となるが、開学記念事業の基礎資料収集のために、すでに「にこナース」が大いに活用されている。

2. 今後の課題

本学リポジトリの特徴は、小回りの利く独立したシステムのため、そのコンテンツを本学のニーズに合わせて、独自に決定できることである。今後さらに利用者のニーズを調査し、要望等を取り入れながら、利用者と一緒にリポジトリ構築を進めることが必要であると思われる。さらに、検索システムの改善等の検討も望まれる。

VI. 引用文献

- 1) 国立情報学研究所ホームページ、機関リポジトリ一覧 <http://www.nii.ac.jp/irp/list/> (2011年3月18日)
- 2) 吉山直樹ら編 (2008) 「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン／バーチャル・カレッジの試み」平成19年度成果報告書
- 3) 新潟県立看護大学リポジトリ <http://repository.niigata-cn.ac.jp/dspace/> (2011年3月23日)